

平成 29 年度 第 2 回 柏原市障害者自立支援協議会定例会議事録

平成 30 年 2 月 21 日 (火) 10 時～

フローラルセンター3 階会議室

司会：なにわの里 漆島

自立支援協議会、定例会の目的

柏原市内の障がい者に関わる機関、事業所が集まって現状を共通理解し、連携をとって課題を解決していく事がねらいである。

専門部会報告

相談部会 (なにわの里 山田)

市内相談支援事業所 4 ヶ所、柏原市虐待防止センター、柏原市障害福祉課で構成。

部会は毎月開催、隔月で制度等についての勉強会、各事業所の事例検討会を実施している。

地域における社会資源不足は近隣市町村のフォーマル、インフォーマルな資源を含めて、既存の資源の情報を部会内で共有し、柔軟なサービスをコーディネートしていきたい。

介護保険事業のケアマネとの事例検討会の継続、保健所等他分野との連携を深める事で地域課題の共有、解決の糸口を探していきたい。

子ども部会 (なにわの里 漆島)

就学前説明会の実施 (h29.9.12)

今までは直接教育委員会に問い合わせれば相談が受けられていたが公の場での説明会をとの要望があった為、教育委員会の協力を得、実施することができた。

当日は天候のせいもあり参加者が少なかったが、就学に向けての情報を得られ意義のあるものとなった。次年度は 5 月に説明会、9 月に懇談会を計画している。

研修会の実施 (h 29.10.19)

奈良県立医科大学飯田順三教授を講師に迎え、「発達障がいに関する基礎知識、脳に関する最新研究」についてご講義をいただいた。非常にわかりやすい内容で好評を得た。

事業所見学会 (h 29.10～11)

各事業所や機関(保健センター、子育て支援センター等)の現場の見学に延べ 40 名程の参加があった。市内のサービス資源が確認でき、またその場での交流も生まれた。2 年置きに実施、次年度は行わない予定。

かしわらっこファイルのアンケート

今後の運用に役立てるために使用状況のアンケートを取る予定であったが実施で

きていない、次年度に持越しとなる。

日中・就労部会（さんねっと 東野）

日中就労部会の在り方、今後の活動についての学びの場を10月にもった。東大阪市自立支援協議会就労部会副会長山崎氏を迎え、東大阪市の状況や今後の方針について話しを伺った。部会存続の有無も話に挙がったが就労に焦点を当てて、検討・議論の場としての継続が必要という結果となった。

12月の部会では今年度の見直しと次年度に向けての大枠の方針を検討した。

次年度は就労についてのマニュアルを作成したい。利用者、支援者を含め就労についてどこにどういうふうに相談をしたらいいのか、指針や方向を見つけるのに役立てられるように地域に合ったマニュアル作成を目標とする。

【補足】（社協 森田）

生活困窮者自立支援事業で、背景に障害、母子世帯、高齢、引きこもり等課題を抱えておられる働きたくても働けない人への支援として就労訓練をオーダーメイドで行っている。インターンシップ事業として地域の企業の協力のもと、有雇用期間契約を結び職業体験を経て、本雇用に結び付いた例がある。出口部分の支援として広く周知をしてほしい。

くらし部会（なにわの里 林）

つながる音楽祭（h29.9）

障がい者と地域とのつながり、暮らしを知ってもらう目的で活動を行っている。

9月に旭ヶ丘3,4丁目会館で「つながる音楽祭」を開催した。地域の方達との交流が少ない事を踏まえ、余暇活動の一環として日頃から顔の見える関係性を築ければとの思いで行った。地区福祉委員を含め約50名の参加があった。

事業所見学（h29.12.8）

夢工房くるみの生活介護、就労継続支援B型の事業所見学を行った。地域の方への参加を募ったが民生委員5名の参加となった。参加者は少なかったが、積極的な質問もあり、障がいのある方達の暮らしを知ってもらう機会作りができた。

部会の課題として、グループホームの昼間の支援員の確保やスプリンクラーの設置においては義務付けられてはいるが、現実、実施するのは難しい。それが故に重度の障がいを持たれている方は利用がしにくい状況である。

グループワーク

目的…種別の異なる事業所の方達が事例を通してイメージを共有し、必要なサービスや支援の組み立てをしながら交流を図る。

検討内容発表

- ① グループ 施設から地域での生活を希望する事例
相談支援員に相談をし現状を聞き取る事から始める。持病があり、医療との関わりを継続させながら本人の気持ちに寄り添える支援を進めていく。1人暮らしを希望されているが、それに固執せず移動支援を利用したりして本人やその周辺を知る事が必要。

- ② グループ 自閉症スペクトラムの診断を受けた子どもの事例
具体的な情報が少なく（自閉症スペクトラムって何？、多動症の程度は？周りの環境は？両親は？）それをどうクリアしていくかが課題。
出来ないという事だけで制限をされている部分を広げていく支援が必要。保育や児発、放課後デイを利用し、経験を積み重ね小さな事でも出来る事を増やしていく。
興味の範囲を広げ得意な事に気づいてあげれば支援方法も見えてくる。
インフォーマルなサービス（大学のサークル等）の利用もできる。

- ③ グループ 就労支援の必要な事例
年金、貯蓄の切り崩しで生計を立てており、近い将来生活基盤が不安定になってくるであろうが、本人や家族に仕事に対しての意欲が感じられない。背景には対人関係の問題があり社会的孤立を招いている。自立訓練や生活訓練から始めてもいいのではないかと。本人ができる事のアセスメントをとり、就労支援の専門的なコーディネーター役がいないので専門分野とつながる事が必要である。障がいとしての配慮をし、パーソナル面でどこまで支援をしてスキルを上げて行くかの境界の見極めが難しい。

- ④ グループ 両親が外国の方で、子どもが自閉症スペクトラムの事例
今後定住されるのか、帰国されるかにより支援方法が変わってくる。
両親においては言葉のバリアが大きな課題であり、本人に対してはコミュニケーションスキルを取得する機会が少ない事が課題である。
日本語学校に行く、地域全体が外国の方への理解を深める、地域のイベントで自国を紹介する等周りとの関係性を積極的に深めていけるように支援をしていく。

[総評] 地域生活支援センターかしわら 栄

グループワークでの地域の事業所間の交流、お互い顔を知っている関係作りができこの関係が日常の業務に活かせるようにつながればと感じた。

国が平成 30 年度の報酬改定を打ち出した。現場が一生懸命していることを認めてもらえ、事業として継続していけるように自立支援協議会では現場から必要な事をしっかり吸い上げていきたい。どこかの協議会ではなく、自分達の協議会と認識し認めて欲しいこと、足りない資源等ご意見、ご要望をたくさん出して下さい。

*参加者 事務局を除く

ヘルパー事業所	7名
相談支援事業所	3名
就労継続支援 B 型	3名
就労継続支援 A 型	2名
放課後等デイサービス	4名
児童発達支援	1名
グループホーム	1名
生活困窮者自立支援事業	1名
計	22名